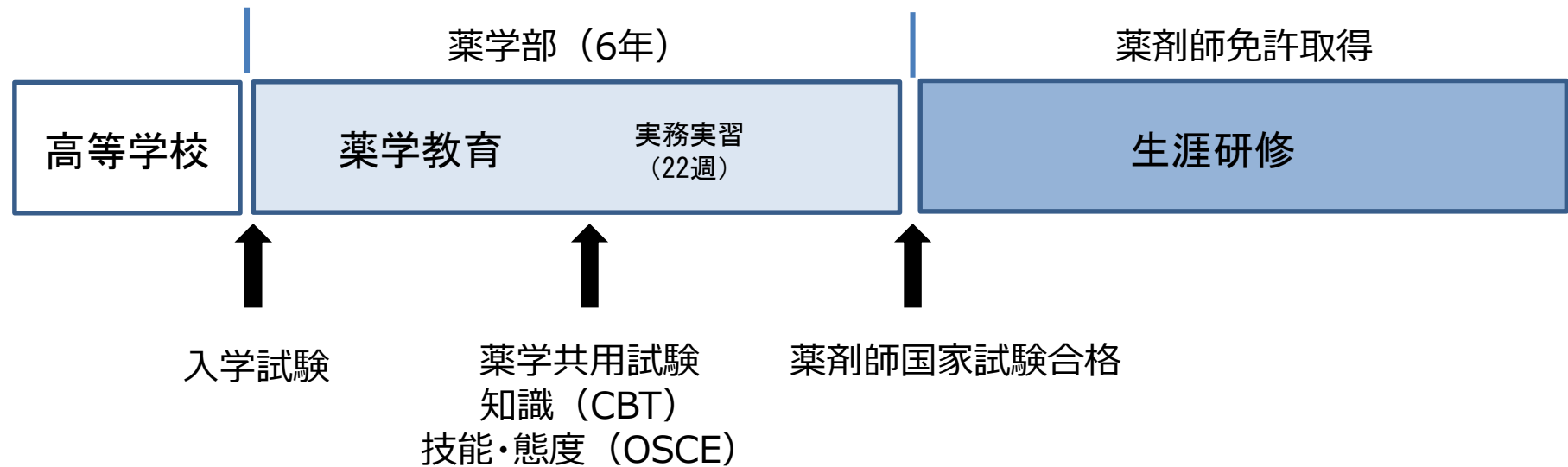


薬剤師国家試験について

薬剤師養成のための卒前・卒後教育の流れ



実習前の確認試験

- ・平成21年12月 実務実習開始前に備えるべき知識と技能・態度を評価する「薬学共用試験」実施
- ・平成22年5月 実務実習開始

薬剤師国家試験

- ・平成22年1月 6年制に対応した「基本方針」策定
- ・平成22年9月 6年制に対応した「出題基準」策定
- ・平成24年3月 6年制国家試験開始
- ・平成28年2月 新たな「基本方針」策定
- ・平成28年11月 改訂コアカリ対応「出題基準」策定
- ・令和3年2月 改訂コアカリ対応国家試験実施

国家試験の基本方針と出題基準

●薬剤師国家試験のあり方に関する基本方針（H28.2）

※医道審議会薬剤師分科会 薬剤師国家試験制度改善検討部会

3. 具体的な事項について

（1）試験科目について（抜粋）

- 現行では、必須問題は、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認する問題として、一般問題は、薬剤師が直面する一般的課題を解釈・解決するための資質を確認する問題として出題している。
- 本部会において、「物理・化学・生物」については、実務実習前の薬学共用試験 CBTで基礎力を担保し、薬剤師国家試験においては、一般問題でのみ出題すればよいのではないか、との意見もあり、この点について議論した。
- しかしながら、本部会としては、薬剤師資格を持たない薬学生が実務実習を行うための一定レベルの知識を確認する薬学共用試験 CBT と、薬剤師として具備しなければならない基本的な知識、技能及び態度を評価する薬剤師国家試験とでは、試験としての性質が異なること、また、薬学共用試験 CBT では出題された問題を公表しないこととしていること等から、薬剤師国家試験で評価すべき基本的な資質を薬学共用試験 CBT で代用することについては、今後の検討課題とする。

また、「物理・化学・生物」を必須問題で出題しないことにより、薬剤師としての基本的な資質として必要ないといった誤った認識が広がる可能性や、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確保できなくなる可能性がある。

したがって、現行どおり、「物理・化学・生物」については必須問題でも出題することとする。

4. 適用時期について（抜粋）

本基本方針については、今後の試験内容や結果、モデル・コアカリキュラムの改訂の状況等を踏まえて、定期的に見直しを検討する。

●薬剤師国家試験出題基準（H28.11）

※医道審議会薬剤師分科会 薬剤師国家試験出題基準改定部会

（4）適用時期と次回改定

本出題基準については、第106回薬剤師国家試験（平成32年度実施）から適用する。また、出題基準については、学術の進歩及び薬剤師業務の変化に伴い、おおむね4年を目途に改定する。

薬学教育カリキュラムと実務実習・国家試験

○改訂モデル・コアカリキュラム（改訂コアカリ）に対応した実務実習は現在2年目、国家試験は本年の試験より適用される。

年度	カリキュラム	実務実習	国家試験
H18	6年制開始（H18年度）		
H19			
H20			
H21			
H22		実務実習（H22.5～）	
H23			6年制国家試験開始（H24.3 97回）
H24			
H25			
H26	改訂コアカリの実施（H27年度）		
H27			合格基準見直し（H28.2 101回）
H28			
H29			
H30		改訂コアカリ対応の実習（H31.2～）	
R元			
R2			改訂コアカリ対応試験（R3.2 106回）
R3以降			

参考資料

※第 1 回検討会資料等

- 6年制薬学部のカリキュラム作成の参考となる教育内容ガイドラインであり、学生が卒業までに身に付けておくべき必須の能力の到達目標を提示
- 「**薬剤師として求められる基本的な資質**」を設定し、それを身につけるための一般目標、到達目標を設定する**学習成果基盤型教育(outcome-based education)**に力点
- 教育課程の時間数の7割はモデル・コアカリキュラムに示された内容を、3割は大学独自のカリキュラム等を履修

薬学教育モデル・コアカリキュラム

A 基本事項

(1) 薬剤師の使命、(2) 薬剤師に求められる倫理観、(3) 信頼関係の構築、(4) 多職種連携協働とチーム医療、(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

B 薬学と社会

(1) 人と社会に関わる薬剤師
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範
(3) 社会保障制度と医療経済
(4) 地域における薬局と薬剤師

卒業まで継続して学修

C 薬学基礎

C1 物質の物理的性質
C2 化学物質の分析
C3 化学物質の性質と反応
C4 生体分子・医薬品の化学による理解
C5 自然が生み出す薬物
C6 生命現象の基礎
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節
C8 生体防御と微生物

D 衛生薬学

D1 健康
D2 環境

E 医療薬学

E1 薬の作用と体の変化
E2 薬理・病態・薬物治療
E3 薬物治療に役立つ情報
E4 薬の生体内運命
E5 製剤化のサイエンス

F 薬学臨床

早期臨床体験
(2年次修了まで)
実務実習履修前の学修

実務実習と体系的に関連づけて学修

実務実習
病院及び薬局
(20単位・22週)

(1) 薬学臨床の基礎
(2) 処方せんに基づく調剤
(3) 薬物療法の実践
(4) チーム医療への参画
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

G 薬学研究

(1) 薬学における研究の位置づけ
(2) 研究に必要な法規範と倫理
(3) 研究の実践

実務実習開始前の共用試験
(CBT(知識)・OSCE(技能))

実務実習と体系的に関連づけて学修

薬剤師国家試験

薬学準備教育ガイドライン(例示)

人と文化

人の行動と心理

薬学の基礎としての
英語、物理、
化学、生物、
数学・統計学

情報
リテラシー

プレゼンテーション

大学独自のカリキュラム(薬学アドバンスト教育ガイドライン(例示)も参考)

薬剤師国家試験

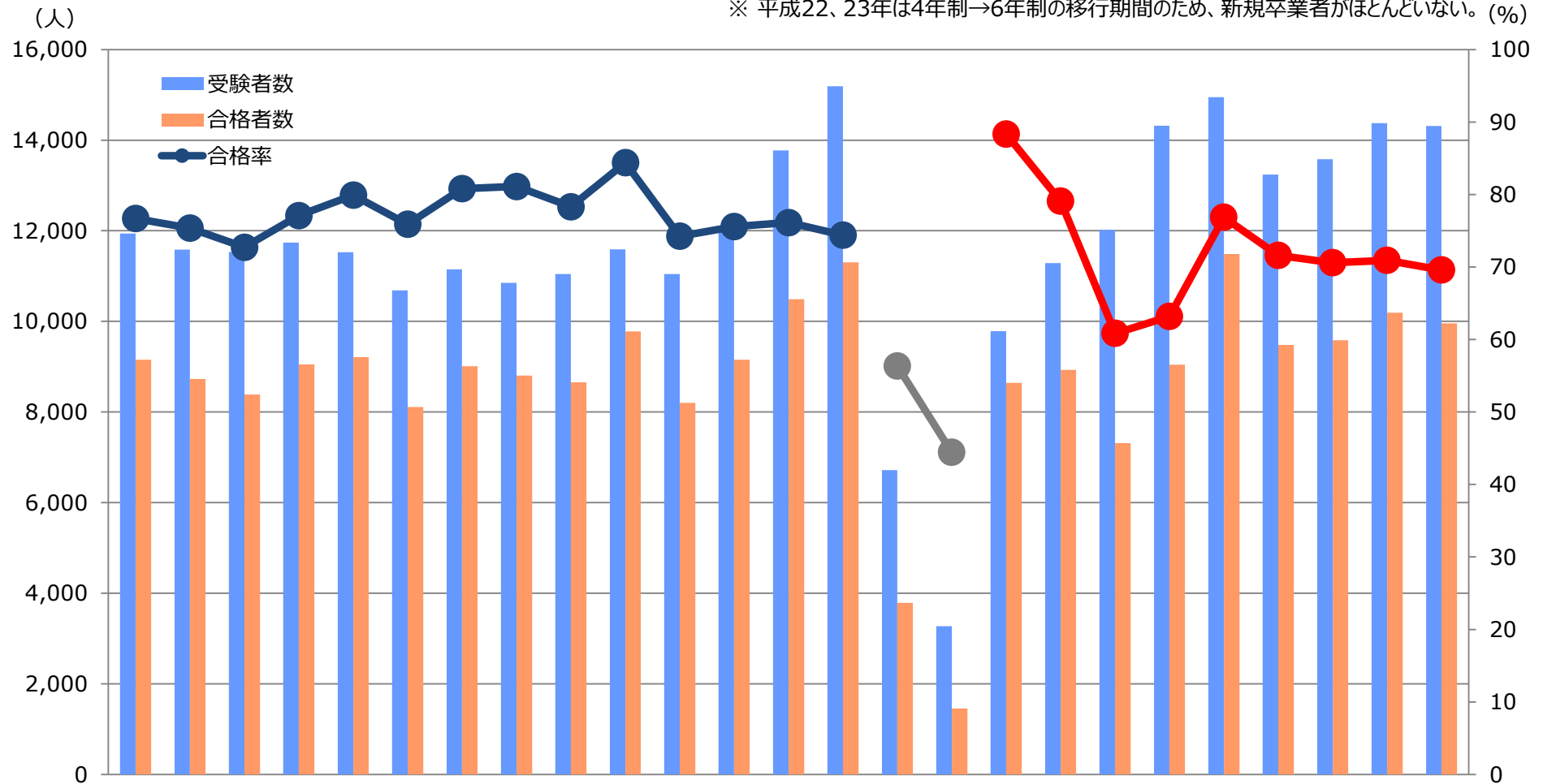
- 薬剤師国家試験は、345問出題され、科目別の出題数は以下のとおり。試験は2日間実施。（第105回国家試験は、2020年2月22日（土）、2月23日（日）に実施）
- 2015年度に実施した第101回国家試験より、相対基準による合格基準を導入。2018年度に実施した第104回国家試験より禁忌肢を導入。
- 2020年度（第106回）より改訂モデル・コアカリキュラムに対応した国家試験（2016年11月の「薬剤師国家試験出題基準」に基づく国家試験）が実施される。

科目	問題区分				出題数計
	必須問題	一般問題	薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・化学・生物	15問	45問	30問	15問（複合問題）	60問
衛生	10問	30問	20問	10問（複合問題）	40問
薬理	15問	25問	15問	10問（複合問題）	40問
薬剤	15問	25問	15問	10問（複合問題）	40問
病態・薬物治療	15問	25問	15問	10問（複合問題）	40問
法規・制度・倫理	10問	20問	10問	10問（複合問題）	30問
実務	10問	85問	—	20問＋ 65問（複合問題）	95問
出題数計	90問	255問	105問	150問	345問

（注）薬学実践問題は、「実務」20問、及びそれぞれの科目と「実務」とを関連させた複合問題130問からなる。

薬剤師国家試験の受験者数、合格者数、合格率推移

※ 平成22、23年は4年制→6年制の移行期間のため、新規卒業者がほとんどいない。(%)



	4 年制														移行期	6 年制											
年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020		
受験者数 (人)	11,937	11,582	11,530	11,739	11,529	10,683	11,148	10,850	11,048	11,590	11,046	12,112	13,773	15,189	6,720	3,274	9,785	11,288	12,019	14,316	14,949	13,243	13,579	14,376	14,311		
合格者数 (人)	9,154	8,729	8,387	9,051	9,213	8,108	9,009	8,802	8,653	9,781	8,202	9,154	10,487	11,301	3,787	1,455	8,641	8,929	7,312	9,044	11,488	9,479	9,584	10,194	9,958		
合格率 (%)	76.7	75.4	72.7	77.1	79.9	75.9	80.8	81.1	78.3	84.4	74.3	75.6	76.1	74.4	56.4	44.4	88.3	79.1	60.8	63.2	76.9	71.6	70.6	70.9	69.6		

薬剤師国家試験 試験回次別合格者数の推移

- 平成24年の国家試験より6年制課程に対応した試験となり、これまでの合格者数は84,629人である。
- 第105回国家試験の合格者数9,958人のうち、男性3,823人（38.4%）、女性6,135人（61.6%）であり、合格者の男女比率は毎年同程度である。

試験回次	合 計				6 年 制 新 卒				6 年 制 既 卒				そ の 他			
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
	名	名	名	%	名	名	名	%	名	名	名	%	名	名	名	%
9 7 (H 2 4)	10,644	9,785	8,641 男 3,563 女 5,078	88.31	—	8,583	8,182	95.33	—	—	—	—	—	1,202	459	38.19
9 8 (H 2 5)	12,732	11,288	8,929 男 3,698 女 5,231	79.10	—	9,661	8,221	85.09	—	896	605	67.52	—	731	103	14.09
9 9 (H 2 6)	14,039	12,019	7,312 男 3,060 女 4,252	60.84	—	8,822	6,219	70.49	—	2,517	1,003	39.85	—	680	90	13.24
1 0 0 (H 2 7)	16,546	14,316	9,044 男 3,462 女 5,582	63.17	—	8,446	6,136	72.65	—	5,260	2,794	53.12	—	610	114	18.69
1 0 1 (H 2 8)	16,658	14,949	11,488 男 4,515 女 6,973	76.85	9,625	8,242	7,108	86.24	6,378	6,185	4,201	67.92	655	522	179	34.29
1 0 2 (H 2 9)	14,701	13,243	9,479 男 3,690 女 5,789	71.58	9,417	8,291	7,052	85.06	4,736	4,515	2,295	50.83	548	437	132	30.21
1 0 3 (H 3 0)	14,876	13,579	9,584 男 3,739 女 5,845	70.58	9,555	8,606	7,304	84.87	4,834	4,577	2,151	47.00	487	396	129	32.58
1 0 4 (H 3 1)	15,796	14,376	10,194 男 3,956 女 6,238	70.91	10,534	9,508	8,129	85.50	4,841	4,527	1,950	43.07	421	341	115	33.72
1 0 5 (R 2)	15,785	14,311	9,958 男 3,823 女 6,135	69.58	10,276	9,194	7,795	84.78	5,119	4,804	2,050	42.67	390	313	113	36.10

※ 「新卒」は試験実施年の3月に卒業した学生、「既卒」はそれ以外の学生。「その他」は、旧4年制卒、受験資格認定者。

＜基本方針の見直しの経緯＞

- 平成18年に6年制課程が導入されたことを受け、平成22年1月に基本方針取りまとめ
- 平成24年3月より、6年制課程に対応した薬剤師国家試験が4回実施
- 平成25年12月に薬学教育モデル・コアカリキュラムが改訂、平成27年度入学生から適用



薬剤師国家試験についても、改訂モデル・コアカリキュラムへの対応が必要

＜見直しにあたっての背景と基本的な考え方＞

- 地域包括ケアシステムにおける多職種連携、医療機関におけるチーム医療等、薬剤師の果たすべき役割は大きくなっている。
- ⇒**薬剤師国家試験を通じ、薬剤師資格を有する者として必要な倫理観、使命感や知識・技能・態度を確認する必要がある。**
- 6年制導入後の薬剤師国家試験は合格率に大幅な変動が生じている。
- 個々の問題の内容について、概ね適切だが、一部に難易度が高いもの、例外的事項を問う問題が散見される。
- ⇒**国家試験の実施状況を踏まえ、改善事項を検討する。**

(1) 試験科目について

- 出題科目は現行どおり
- 薬学共用試験CBTの利用は今後の検討課題

(2) 出題基準について

- 改訂モデル・コアカリキュラムに合わせて見直し
⇒今後、出題基準については部会において検討
- 出題内容については、臨床との関連を意識

(3) 試験出題形式及び解答形式について

- 連問※の出題を増やす
- 禁忌肢の導入（104回（平成30年度）から）

※連問：一つの事象に対し複数の問題を出題すること

(4) 試験問題数について

- 現行どおり（計345問）

(5) 合格基準について

- （101回（平成27年度）から）
- 相対基準導入
- 必須問題の最低点数を、各科目の50%から30%に変更
- 一般問題の最低点数を廃止

(6) 既出問題の取扱いについて

- 現行どおり
（20%程度とするが、既出問題が十分に蓄積されるまでの間はこの限りではない。）

薬剤師国家試験のあり方に関する基本方針 概要③

<これまでの合格基準>

総得点

65%以上（絶対基準）

必須問題

- ・ 全問題の70%以上
- ・ 各科目毎で50%以上

一般問題

- ・ 各科目毎で35%以上

<新たな合格基準>

（第101回薬剤師国家試験（平成28年2月末に実施）より適用）

総得点

平均点と標準偏差を用いた
相対基準（※）

必須問題

- ・ 全問題の70%以上
- ・ 各科目毎で30%以上

一般問題

必要最低点数を廃止

維持

緩和

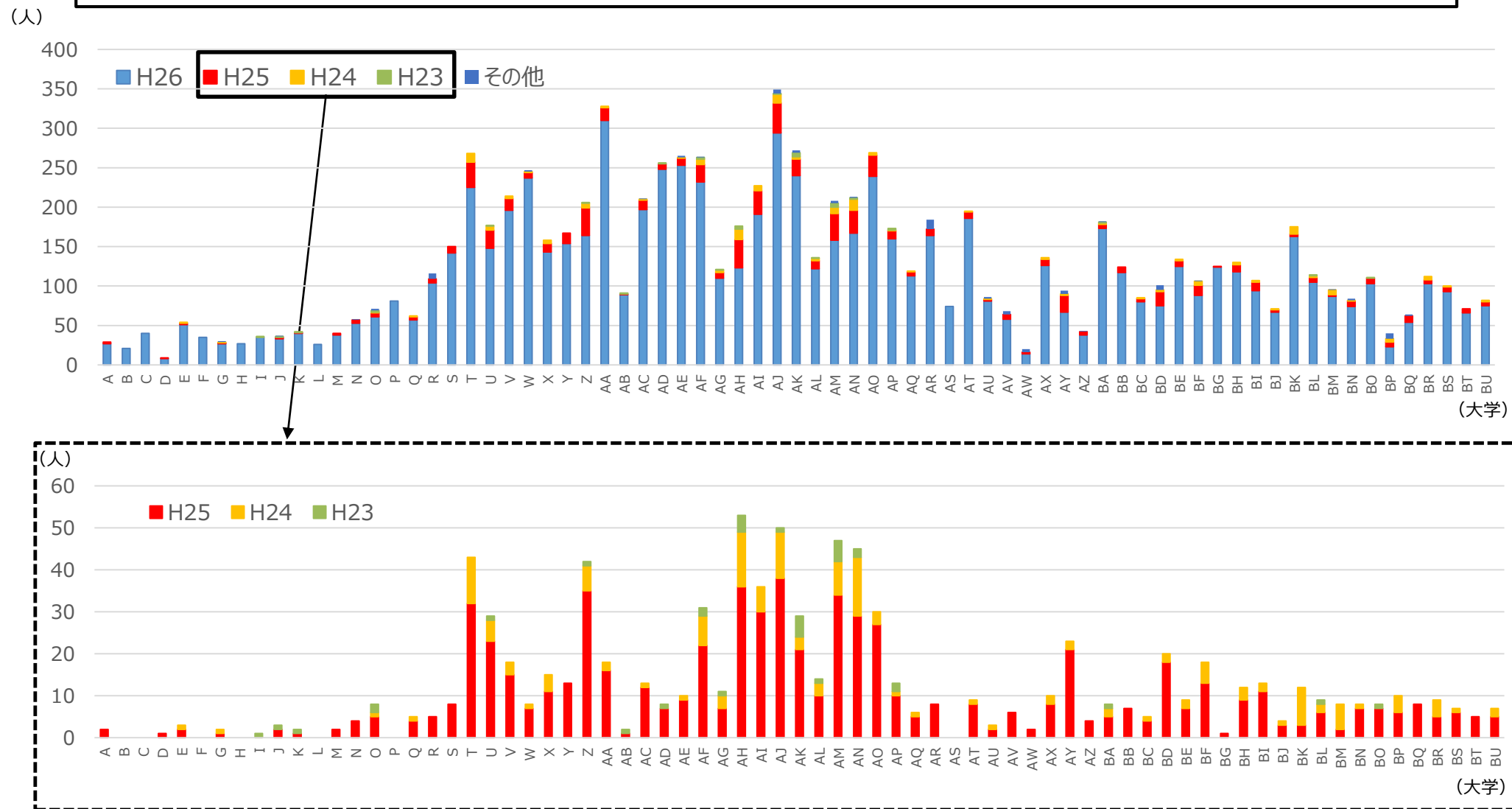
緩和

※ 当分の間、全問題への配点の65%以上であり、かつ、他の基準を満たしている受験者は少なくとも合格となるよう合格基準を設定。

※ 第104回薬剤師国家試験（平成31年2月末に実施）より、合格基準に
禁忌肢の選択状況も加味している。

（参考）新卒受験者の入学年度（R2.2実施の第105回国家試験）

○ 新卒（R2.3卒業見込み）の受験者（9,194人）の入学年度は、大半はH26年度であるが、それ以前の入学年度の学生も存在する。（新卒受験者だからといって、入学から6年間で卒業見込みではない）

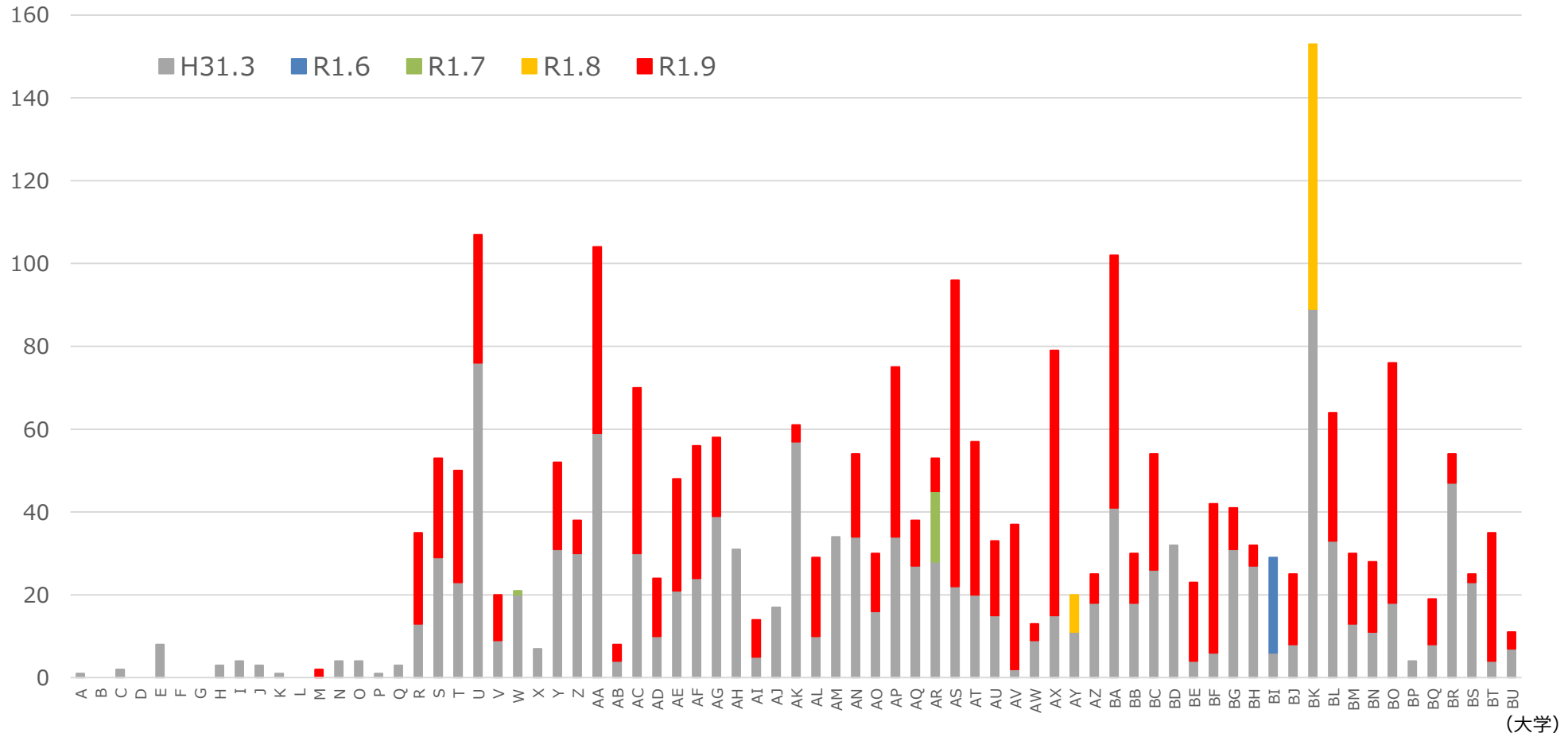


※国家試験合格者の入学年度は国家試験の出願書類に記載されたものを用いて厚生労働省で集計したものであり、数字は参考。
（参考値なので大学名は明示していない）

（参考）既卒の受験者の卒業月（R2.2実施の第105回国家試験）

- 既卒の受験者のうち、直近1年間に卒業した人（2,492人（参考値））の卒業月は、3月以外の人も多い（直近1年間に卒業した人の5割弱）。
- 本来は、第104回国家試験の新卒としてH31.3に卒業するはずであったが、卒業留年等で卒業時期が遅れたものと考えられる。（第105回の受験時には既に卒業しているので、新卒にはならない）

(人)



(大学)

※国家試験合格者の卒業年月は国家試験の出願書類に記載されたものを用いて厚生労働省で集計したものであり、数字は参考。
（参考値なので大学名は明示していない）